

花と向き合う2年間

園芸別科花卉専攻2年

大下翔平

私たち園芸別科花卉専攻は「花組」と呼ばれています。これからの花業界で働いていくために必要な基礎知識や、高度な栽培技術を学んでいます。今年の花組メンバーは、2年生2名に1年生6名の計8名で構成です。去年の入学者の少なさから、今年も人が少ないのでは…と心配していましたが、前年に比べて新入生の数に恵まれ、心配が杞憂に終わり内心ほっとしています。

花組では週に2回、柏の葉キャンパス内の花卉・苗生産部で実習が行われます。母の日に合わせたカリブラコアの出荷、夏休みにはシクラメンの葉組、葉分け作業にパンジー、ビオラの播種とポット上げ。冬になるとペチュニアの挿し芽など、年間の生産スケジュールに合わせた実習を行っています。

花卉産業必修1000属検定用ハウスの灌水も花組の役目です。入学後、すぐに先輩や共同で管理を行っている花卉研究室の皆さんに灌水についての手ほどきを受け、覚えていきます。ハウス全体で管理の不足が無いように確かめるのは頭で思っている以上に大変です。乾きやすい鉢や、多湿を嫌う植物など1つのハウス内に異なる個性の植物が並んでいるので、1つ1つ丁寧に見極めなければなりません。また、当然ながら天気や気温、季節により管理方法が変わっていきます。慣れないうちは、とにかく鉢を乾かさないようにと多く水を与えずぎて根腐れさせてしまうことや授業の時間に追われ、乾いている鉢の確認が疎かになり、乾かし過ぎてしまうこともありました。しかし、回数を重ねていくうちに、その植物の特徴に合わせた灌水と鉢の状態確認が身に付くようになりました。

花卉産業必修1000属検定用ハウスの管理をしながら植物を観察し、特徴と名前を覚えていくのも重要なことの一つです。ハウス内の植物には一つずつ科名、属名と和名が表記されているラベルがつけられており、その名前を確認することができます。名前を覚えるのは検定試験のためです。検定試験は難しさに応じてC級、B級、A級の3つに分けられています。特にC級は、花の仕事をする際に必要最低限の知識とされ、花

組では修了までにC級の合格が目標になっています。

11月には戸定祭があります。花組では自分たちが育てた花の他に、OBの皆さんから頂いた植物の販売をしています。販売する花は花選びから価格まで自分たちで考えて決めました。先生や技官の皆さんから頂いたアドバイス、OBの皆さんからの植物の提供など、今年も多くの人の力を借りているこの一大イベントを成功させるべく、頑張っていきたいと思います。

戸定祭が終わると2年生は修了論文の作成が待っています。各自がテーマを決め実験に取り組んでいます。実験が始まると、1年の時は長く感じた時間があっという間に過ぎていきます。また植物が相手ということもあり、思うように進まない実験に悪戦苦闘の毎日。気が付くと2年目の半分が過ぎ、残りの学校生活も少なくなってきました。実習と実験。それから1000属検定試験の勉強とまだまだやることは多く、慌ただしい日々が続いていくと思います。

2年間の実習の中で自分自身が成長できたと実感できることもあります。実習の内容を聞いて何が必要なかを自分で考え行動に移すこと、その場の作業に応じて「今自分が何をすべきなのか」、「自分にできることはないか」周りを見て行動できるようになりました。花組で得た経験は、今後の自分にとっての財産です。

